

# 「ってゆうか」は単なる意味のない前置き表現か

## — 意味の観点から —

林 千 賀

### 要旨

最近の会話でよく使用される「ってゆうか」は、「特に意味がなく表現を和らげる」表現、また「話を切り出す時の意味のない前置き」表現であると言われているが、このような用法には、本当に意味がないのだろうか。

本稿では、「ってゆうか」の持つもともとの意味、つまり相手・自分の発話に対してそれを緩和しながらの形で否定する意味の「ってゆうか」そして、前件 X を後件 Y で言い換えるときに使用する「ってゆうか」のような「ってゆうか」を「ってゆうか」の「意味核」と定義し、「それ自体に意味のない」とされてきたディスコース・マーカースとして使用される「ってゆうか」に意味核があることを実証することを本稿の目的とし、仮説をたてそれを実証することとする。

キーワード： 前置き、意義素、省略、躊躇感、本音、ディスコース・マーカース

### はじめに

最近の会話でよく聞かれる「ってゆうか」<sup>1)</sup>は、若者言葉<sup>2)</sup>として分類されている（現代用語の基礎知識2006）。このこと自体に異論はないが、『現代用語の基礎知識』、塩田（1993a, 2003a）、岩松（1997）では、「ってゆうか」の説明を「特に意味なく表現を和らげる」（辻1996）「話を切り出す時の意味のない前置き」（塩田2003a）表現としている<sup>3)</sup>。つまり、「ってゆうか」は、それ自身に意味を持たず（意味のない）、談話機能を持つ話を切り出す時の前置き表現であるというのだ。このような前置き表現の「意味がない」と扱った先行研究には塩田（2003a, 2003b.）<sup>4)</sup>がある。

一方、「ってゆうか」を「全く意味がない」という立場をとらない先行研究も多い（梅沢1999；沖1999；塩田1998, 2001, 2003a, 2003b；辻1999a, 1999b；砂川2004；メーナード2001, 2004, 2005）。これらはどれも「ってゆうか」には相手や自分の意見に緩和しながら反対する機能、そして否定の意味があるとしている。「ってゆうか」のもともとの用法は「X どうか Y」のように、前件 X というより、むしろ後件 Y であると言い換える機能を持つ。沖（1999）は、このような「ていうか」を旧来型と呼び、分析している。

しかし、ある「ってゆうか」によっては用法が習慣化されて、それ自体に意味がなく、語用的機能へと拡大した表現もあるとしている。例えば、副詞的用法の何の脈略もなく話題を転換する用法への拡大（沖1999）、接続詞的用法の「話は違うけど」などの用法への拡大（梅沢1999）、呼びかけの言葉の「ねえ」、「ちょっと」などの用法への拡大（梅沢1999）、言いよどみの躊躇感を知らせる用法への拡大（メーナード2001, 2004, 2005）などがあ

げられる。このような拡大した表現をメイナード (2004, 2005) は、①発話の前触れ、②会話の埋め込み表現、③トピック提示の前置きなどの談話機能があると述べている。このように旧来型では引用表現の1種であった「ていうか」は、語用的使用の中では習慣化され単独に自立語として使われるようになった。このような変化のプロセスについて言及しているのに「文法化」<sup>5)</sup>と呼ばれるものがある。

では、本稿の分析対象となる用法を明確にするために、塩田 (2003a) の「意味のある」と「意味のない」のものの分類例から具体的に概観することとする。

(1) 杏子「もしも、、死んじゃってもいいの？」

終二「(うなずいて) 死なねーよ。」

杏子「(うなずく)」

終二「ってゆうか死なせないから。」

(ビューティフルライフ (2000年, TBS系、北川悦子脚本) 第8話)

(杏子: 常磐貴子 終二: 木村拓哉) (塩田 2003a: 13)

塩田 (2003a) は、不治の病に冒された杏子に対して終二が「死なねーよ」といい、それを言い換えて「ってゆうか死なせないから」と言っていると述べている。終二が言った事柄 X「死なねーよ」を否定してそれよりもっと適した表現 Y「死なせないから」、つまり「X というよりむしろ Y だ」という意で「ってゆうか」で言い換えているのである。しかし、メイナード (2004) では、この同じデータを「ていうか Y」の本音の前触れであると分析している。塩田 (2003a) の解釈では、「自身の前言を言い換えるための「っていうか」である」としている。このように「ってゆうか」の使用は本音を言う前に「いいえ」や「そうじゃなくて」の否定の意で使われるという解釈がもっとも一般的のようである。

一方、次のような塩田 (2003a: 13) の例はどうであろう。

(2) 終二「電話するわ。」

杏子「うん。」(喫茶店に独りで取り残されて)

杏子「ってゆうか、わたし、ひとりじゃ出れないんだけどな」

(ビューティフルライフ、第5話) 塩田 (2003a: 13))

(2) は、独りでは歩けない杏子 (普段は車いすに乗っている) が喫茶店に取り残され、喫茶店のいすに座りながら、終二が去ってしまった後に独り言でつぶやいたものである。塩田 (2003a: 13) は、「ここでは、言い換える対象となるべき「前言」らしいものが全く見当たらない。前言が存在しないこのような用法は、比較的新しいものと考えられる。」と述べ、「無意味な若者言葉」の一例としてあげている。そして、このような用法を「ていうか」が語用的に拡大した用法として扱っている。

しかし、このような前置き表現の「ってゆうか」には意味が全くないのだろうか。そして、単なる「前置き」であれば、「あのう」などの他の前置き表現とは、何が違うのだろうか。従って、本稿では、単なる意味のない談話標識の「前置き」と扱われた「ってゆうか」にも意味があるという仮説をたて、例をあげながら実証することを目的とする。そして、それを実証するために、映画やテレビドラマのデータから分析・考察することとする。

次節では、「ってゆうか」に関わる先行研究を概観する。第2節では、仮説をたて、それを実証するための分析手順について述べる。そして、第3節では、その分析と考察を行う。

最後に、まとめを述べることにする。

また、本稿で扱う意味核とは、語句が固有に有する意味を言う。語の意味については、意義素という言葉があるのに対し、語句に対応する語がないので、意味核を「語句固有に有する意味機能の中核部分」と定義することとする。

## 1. 先行研究

「ってゆうか」のもともとの用法は「というか」である。「というか」は会話上では「ていうか」になり、軽い促音が伴って「っていうか」となった。最近では「ってゆうか」や「つうか」などの表現が会話に頻々と使われるようになってきた（沖1999）。本稿では「ていうか」や「ってゆうか」、「つうか」、「てか」などの表現を同義として扱うこととする。先行研究では、まず、旧来型の「ていうか」の意味機能を概観した上でメイナード（2004, 2005）を概観することとする。

### 1.1. 旧来型の「ていうか」の意味

「ていうか」は、「という」の引用表現と「か」<sup>6)</sup>の疑問詞が「ていうか」になり、慣用化された接続的用法で、「ていうか」は、「引用の「という」と似た分布上の制限があり、話者が自分の発話行為に対する態度を表現している」とメイナード（1994：84）は説明している。

では、このような習慣化された接続的用法など語用機能について概観する前に、従来の「ていうか」にはどのような意味・用法があるのか、まず、旧来型の「ていうか」を概観する。

旧来型の「ていうか」は、(3)のような例を含めた(4)に挙げた3つの用法がある。

- (3) AがいいていうかB分別がないていうか、Cびっくりさせられた。(沖1999：81)

沖（1999）は「ていうか」の文型を三種の変異形にまとめ、これを旧来型と呼んだ。そしてA、Bは対照される事柄で、語でも文でもAとBが同じ形態がたち、Bで言い換えて（或いはBを述べずに聞き手に推測させ）、Cの主張でしめくくるものであると説明している。そして(4)のような「ていうか」の意味をふまえた上で、会話上使用される「ていうか」を分析した（沖1999：81）。

- (4) a. A ていうか、B ていうか、C  
b. A ていうか、B、C  
c. A ていうか、C (沖1999：81)

(3)のA（人がいい）ていうかB「分別がない」では、Aを（否定し）Bで言い換えている。そしてBの「分別がない」ていうかCの「びっくりさせられた」では、Bの発話を躊躇している。会話で「ってゆうか」が使用されている(1)の例を見てみよう。自分の発話X「死なねーよ」を言い換えてもっと適した表現Y「死なせないから」と言っている。このように会話でも前件Xと後件Yが見当たれば、旧来型の意味と同じと言える。メイナード（2004）も語用的前置き表現にも根本的に＜X－ていうか－Y＞という関係が背景にあり、XではなくYという基本的な意味が背景にあると認めている。

このような旧来型の意味・用法、つまり、相手・自分の発話に対してそれを緩和しながらの形で否定する「ってゆうか」や発話（前件）Xを後件Yで言い換えるときに「X いうか Y」という形で使用する「ってゆうか」は、「ってゆうか」のもともとの用法であり、意味機能の中核部分を担うと考える。従って、本稿では、このような意味機能を「ってゆうかの意味核」と呼ぶこととする。

次に「ってゆうか」に「否定」や「言い換え」などの意味は残りつつも、ある発話が省略されているため「ってゆうか」の前件と後件に関連のみられない例を先行研究から概観する。

## 1.2. 意味がありながらも前件と後件に関連のみられない「ってゆうか」

まず、省略された発話を復元して「ていうか」を説明している先行研究（梅澤1999：沖1999）から、沖（1999）の例で示しながら概観する。

(5) ア：「あっ、お弁当作ってきたんだ。」

イ：「っていうか、お金がなかったんだけどね。」（沖1999：82）

(5') ア：「お弁当を作ってきたなんて立派な心掛けだね。」

イ：「お金がなかったからお弁当を作っただけで、立派ではないよ。」

(5'') イ：「立派な心掛けからっていうか、お金がなくて必要にせまられてっていうか、  
ともかくそんな立派なものではないよ。」

(5) の会話では、イが「っていうか」で何かを否定しているが、前件 X が言内には見当たらないし、アの発話とイの発話に関連がみられない。もし、前件 X が「お弁当作ってきたんだ」であるなら、「お弁当作ってきたっていうかお金がない」となり、それでは意味が通らない。沖（1999）は、(5') のように話者の気持ちを解釈して (5'') のように前件を「立派な心掛けから」と復元すると (5'') のイのようになり、前件と後件は関連性を有すると分析している。

このように省略された前件 X を文脈によって復元することで「っていうか」は前件 X を後件 Y で言い換えていることがわかる。そして、「前件を否定し本音を言う」という意味が明確になり、同時に本音の前置きという用法にもなるのである。このように発話が文脈情報と相互作用した結果、なんらかの文脈効果をもたらす際に得られる解釈に Sperber and Wilson (1986) の関連性理論<sup>7)</sup>がある。

また、沖（1999：82）は、文型はあくまでも旧来型の「というか」が持つ枠をこえてはいないが、「言葉に表れた相手の表現をそのままひきとるのではなく、言語表現を通して相手の真意を察し、それを「ていうか」でひきとって、さらに自分の主張も省略を重ねた言い方で表現している。」と説明している。堀口（2000：107）は、会話において構文法的な構成要素が省略されることは頻々に見られ、また、「話し手がある要素を省略するのは、それを省略しても聞き手にはわかるはずだと判断したからである」と述べている。つまり、聞き手は話し手がある要素を省略してもそれを復元して話し手の発話を理解することができるのである。しかし、聞き手がなぜ、正しい復元ができるのかについては言及していない。関連性理論では、文脈情報によって得られる想定群から最適の想定を最小の労力で得ることができると述べられている。

(5) は言内で「ってゆうか」の否定を表す意味にはなっているが、前件が省略されているため、表面上は(1)と(3)とは異なった用法であるかのように思われる(実際に先行研究では、(5)は、(1)と(3)とは別に分類されている(梅澤1999; 沖1999))。ここで、(5)は統語的には「ていうか」の前件Xが省略されていて見当たらなかったが、省略箇所を復元することによって、「ていうか」の意味核がしっかり残っているということがわかった。つまり、統語的に深層上「X」が存在するということである。従って、本稿では、省略箇所を復元することによって意味核が確認できる「ていうか」も意味のある「ていうか」と分類することとする。

次に「ていうか」を統語上の位置で文頭の前置き表現と文末の後置き表現に分類し、それぞれの機能はどうであるかを扱った先行研究を概観する。

### 1.3. メイナードの分類(前置き表現と後置き表現)

メイナード(2004, 2005)は、「ていうか」を発話や文のどの位置で用いられるかに着目し、「X ていうか」と「ていうか Y」とXやYから独立した「ていうか」の3つに別け、それぞれの意味を際立たせて分類している。X「ていうか」の後置き表現の用法を「躊躇感の情意」と呼び、Xの内容を躊躇して「ていうか」が使われる言い淀みの表現であると述べている。また、「ていうか Y」の前置き表現の用法を「本音の前触れ」と呼び、Yが本音に近い内容である場合の前置きとして「ていうか」が使われ、相手に対する態度の伝達や、発話行為の調整や管理の機能があると述べている。また、「ていうか」が単独で 사용되는場合、発話行為の前置き表現とし、①発話の前触れ、②会話の埋め込み表現、③トピック提示の前置きなどの会話のストラテジーとして使われる話者の発想・発話態度の標識であると述べている<sup>8)</sup>。従って、(6)の例においては、①の「ていうか」は「発話の前触れ」の機能の例で、②の「ていうか」は「躊躇感」の言い淀みであると言える。

(6) 杏子「でもめずらしいね、こんな時間に電話」

柊二「や、ちょっと、眠れなくてさ、うん」

「<sup>①</sup>ていうか、さみ、しい、<sup>②</sup>っていうか」

杏子「ねえ、柊二」

柊二「うん？」

杏子「あたし、いつも柊二のそばにいるよ。」

(ビューティフルライフ(2000年, TBS系、北川悦子脚本)第10話)

(メイナード 2004: 226)

メイナード(2004)によると(6)の柊二は、心細さを「①ていうか」で前置きして「さみ、しい」と言葉をゆっくり切って本音の告白をする。そして、「②っていうか」の後置きで躊躇感を伝えていると述べている。しかし、この「①ていうか」でも、前件Xは「眠れなくてさ」であり、前件Xを言い換えて後件Y「さみ、しい」が発話されていることが会話から解釈できる。この場合は、会話上、「X ていうか Y」も認められるので、「ていうか」の意味核も存在していることになる。しかし、メイナードの分類では、会話上「X」が見当たると見当たらない場合という方法で分類はしていない。メイナードはこのような会話上の「X ていうか Y」を「ていうか Y」の類に分類している。なぜなら、メイナード

の言う「ていうかY」には談話標識の機能が含まれており、「ていうか」の根本的機能（旧来型）の「XというかY」と区別するためと筆者は考えるからである。これについては後節で詳しく述べることにする。一方、「②っていうか」の場合は、躊躇感の意味はあっても統語上、後件のYは見当たらないので本稿の分類と同じとする。

では、次にメイナード（2004）の発話行為の「ていうか」について概観してみよう。

(7) 真弓：ねえ、この絵みんな同じ顔。さつきさんに似てるよね。

柊二： ていうかさあ。

真弓： うん？

柊二： 控え室ってのまずいんじゃない？

真弓： ああ？

柊二： 俺には関係ないけどね。

（ビューティフルライフ（2000年、TBS系、北川悦子脚本）第2話）

（メイナード2004：230）

事例（7）でメイナード（2004）は、柊二は新しいトピックを提示する前に「っていうかさあ」で前置きしていて、真弓が店長と控え室でいちやついたりしていることを非難するのだが、言いにくいことを言うときの埋め込みであり、またトピック提示の前置きとしても機能していると分析している。そして、この会話を「相手への気配り、親密感や信頼感、傷つきやすさや弱さの伝達、しかし、主張する態度などが伝えられている。」と説明している（メイナード2004：230）。

次節では、これらの先行研究をふまえた上で、仮説を立ててみることにする。そして仮説を検証するために、まずその手順を述べる。

## 2. 仮説と分析手順

先行研究をまとめるとメイナード（2004）の「ていうかY」の前置きは、会話の中で表層上「X」が見当たる場合、あるいは「X」の復元可能な省略の場合（以後、深層上のXと呼ぶ）、その意味は、「ていうか」の意味核と同じで、「XというよりむしろYである」と本音に言い換えるための前置き表現であると考えられる。また、会話の中に「X」が表層上でも深層上でも見当たらない場合、発話行為の談話標識（ディスコース・マーカークと呼ぶ）として機能しているようである。そしてこのような機能の変化には、文法化の発達と同じプロセスがあると前節で触れた。Hopper and Traugott（1993：111）は、語用的に文法化が進んだ時、「もともとの語彙的意味のうち、あるものはずっと続く。そして、この現象は持続性（persistence）と呼ばれる」と指摘している。つまり、文法化の観点から言うと、ディスコース・マーカークとなった「ていうか」にも（全く同じではないが）、意味核は残っていることになる。しかし、「ってゆうか」の先行研究からは、語用的に拡大した用法（ディスコース・マーカーク）の「ってゆうか」に意味（つまり、本稿のいう意味核）が残っていることは、述べられていなかった。従って次のような仮説を立てることとする。

(8) 仮説：前件のXが会話から深層上も表層上も見当たらない場合、その「ていうか」はディスコース・マーカークとなる。そしてそのディスコース・マーカークには、意味核が残っている。

本稿では、このような仮説を実証するために次のような手順でデータから分析することとする。

(9) 分析手順：

- ① 会話上から「X」が深層上も表層上も認められた場合、意味核があるとする。
- ② 会話上から「X」が深層上も表層上も認められなかった場合、ディスコース・マーカーとする。
- ③ ディスコース・マーカーから、統語上「X」が認められなくても、文脈上、認めることが可能であれば、意味核があると判断する。

以上の手順で分析するために、まず、「意味がない」と言われている先行研究のデータと言語記号以外の文脈も復元できる映画やドラマ、インターネットのブログのデータ<sup>9)</sup>を比べながら分析・考察することとする。

### 3. 分析と考察

#### 3.1. 表層上に「X」が認められる場合

まず、旧来型の例をインターネットのブログの例から見てみよう。

- (10) 久々に脳みそ刺激されたってゆうか、インスパイアされたってゆうかそんな感じ。

(<http://home01.isao.net/ayanami/daiary/200107.html>)

これは、明らかに旧来型であるし、「脳みそが刺激された」という「X」が認められるので「X というか Y」となり、意味核があると言える。旧来型の場合、前件 X や後件 Y は「というか」と必ず共起しなければならない。ブログは書き手が読み手を意識しているのでブログでも常に語りかけられたり、語りかける相手を想定するのである。メイナード(2004: 220) は、このように実際に相手がコミュニケーションの場になくてもあたかもいるようである現状について Bakhtin (1984) の「隠された会話性 (hidden dialogicality)」を取り上げている。

では、「っていうか」がどのように会話で使用されているのか先行研究の例から考察することとする。

- (11) ア：「山田君でいい人だよな。」

イ：「あれ？山田君のこと嫌いって言ってなかったっけ？」

ア：「っていうか、苦手だったんだ」(沖1999: 81)

(11) の会話は一見すると「X」が見当たらないように見えるが、話し手アは、イが述べた「山田君が嫌いだ」を受けてそれを「ていうか」で否定し、自分の言いたい事を主張している。これも「隠された会話性」が影響しているが、このように相手の発話を自分の発話に取り込んで会話が展開していくという概念に、水谷(1979)の会話の共存・同一化思考やメイナード(2004)の共話行為などがあげられる。メイナード(2004)は、「ていうか」には主体自体である場合も含めて、もう一人のだれかの言葉を引用するストラテジーがあると説明している。沖(1999: 81)は、このような用法は「相手の立場を尊重した表現ができる」とも述べている。

このように相手の発話に対してそれを緩和しながらの形で否定する「ていうか」もあ

るし、(1)の終二の発話のように自分の発話(前件)Xを後件Yで言い換えるときに「ってゆうか」を使用する場合もある。これらはどちらも(11)の例のように表層上に「X」が認められ、「XというかY」となり、意味核が存在する。また、省略されているが深層上に「X」が認められた具体例は、前節(1.2.)で述べたのでここでは省略するが、この場合も「XというかY」となり、意味核が存在する。そして、メイナード(2004)の「ていうかY」の文頭の本音の前触れのデータからも「X」を認めることができた<sup>10)</sup>ので意味核があるということになる。

次に表層上にも深層上にも「X」が認められない場合について先行研究のデータから考察する。

### 3.2. 表層上にも深層上にも「X」が認められない場合

まず、「話が違うけど」とか「そんなことよりも」のような接続的用法に拡大したデータ(梅澤1999)、何の脈略もなく話題を転換する副詞的用法に拡大した沖(1999)のデータと「ねえ」、「ちょっと」のような呼びかけに拡大した梅澤(1999)のデータから考察してみよう。メイナード(2004)の観点から考察すると、(12)、(13)のような「ていうか」は発話行為の機能をもち、それぞれトピックシフトの前置き(12)、会話の埋め込み表現(13)の談話標識であることが考えられる。そして、このような(12)、(13)、(14)を含め、メイナード(2004)の発話行為に分類されたデータや、本稿のデータからは、前件「X」は見当たらなかった。従って、本稿の仮説である「前件のXが文脈から、深層上も表層上も見当たらない場合、その「ていうか」はディスコース・マーカ―となる」ということまでがわかった。

(12) a 「寝坊しちゃった。」

b 「ていうか今日の試験どう？」梅澤(1999: 80)

(13) ア 「明日のレポートまだ書いてないよ。どうしよう。」

イ 「私も。はやくやらなきゃね。」

ア 「そうだね。っていうか、今日寒いよね。」(沖1999: 83)

(12)の「ていうか」は、統語的には「話が違うけど」とか「そんなことよりも」のような接続的用法に拡大したもの(梅澤1999)である。登校してきた女生徒の会話(12)では、「ていうか」の前件「寝坊しちゃった」と後件の「今日の試験どう？」とは何の関連もないので前件の「X」は見当たらない。梅澤(1999)は、「話はちがうけど」や「そんなことよりも」と同じ意味で接続詞的用法としている。語用的には、トピックシフトの前置き表現である。(13)も同様、前件X「はやくやらなきゃね。」と後件Y「今日は寒いよ」とは何の関連もないし、相手の意見を「否定」する意味も含まれない。このような用法を沖(1999)では副詞的用法として扱い、何の脈略もなく話題を転換する用法を生むと述べている。梅澤(1999: 83)は、「っていうか」は「相手との会話の流れをこわしたくない」という、相反する気持ちが働くときに使用される」と述べている。しかし、(12)も(13)も相手の話題を変えるという点では、相手の話題を否定することから、全く「否定」の意味がないとは言い切れないであろう。つまり、意味核が残っていることにならないだろうか。しかし、このデータからはこの会話の文脈が十分でなく、客観的に述べることができ



ない。

次に「ねえ」「ちょっと」のような呼びかけの言葉として使用されている「ってゆうか」のデータを考察する。

(14) a 「ていうか消しゴム貸してくれない。」

b 「いいよ。」(梅澤1999: 80)

(14) は消しゴムを隣の席に座る友達に借りる時に「ねえ」「ちょっと」といった呼びかけの言葉として「ていうか」を使用している。梅澤(1999: 81)は、「ていうか」の使用者にとっては、「ねえ」「ちょっと」では、「貸してくれ」と自分の欲求を表明するには、強い(一方的)と感じているのではないかと述べ、自分の欲求を弱める習慣化された使用法であると分析している。確かに(14)の「ていうか」自体には統語上「XというかY」もなければ否定の意味もないが、語用的用法があり、自分に発話権を「ていうか」で引き寄せている。(12)、(13)、(14)のデータでは、どれも前件「X」が見当たらない。なぜなら、どれも「ていうか」が単独に自立語として使用され、ディスコース・マーカーとして機能しているからである。しかし、意味核が残っているということは、このデータからは判断しにくい。

次に本稿で扱ったデータを機能別に分類してみることとする。

### 3.3. 前件「X」が認められる場合と認められない場合

表層上にも深層上にも「X」が認められるデータ(10)、(5)、(11)を表1に、そして、表層上にも深層上にも「X」が認められないデータ(12)、(13)、(14)を表2に、それぞれ、語彙レベル、意味的機能、統語的機能、語用的機能の観点から分類し示すこととする。

表1 表層上にも深層上にも「X」が認められる場合：意味核がある

(◎：強くある/×：ない)

事例	語彙レベル	意味的機能	否定の意	統語的機能	語用的機能
(10)	非自立的	XというよりむしろY	◎	引用	×
(5)	自立語?	XというよりむしろY	◎	引用	本音の前置き
(11)	自立語?	XというよりむしろY	◎	引用	本音の前置き

表2 表層上にも深層上にも「X」が認められない場合：ディスコース・マーカーの機能

(○：ある/×：ない)

事例	語彙レベル	意味的機能	否定の意	統語的機能	語用的機能
(12)	自立語	そんなことよりも	○?	接続的	発話の前触れ トピックシフト
(13)	自立語	相反の気持ちの意	×	副詞的	発話の前触れ 埋め込み表示
(14)	自立語	ねえ、ちょっと	×	間投詞的	発話の前触れ トピックの提示

<表1>は、会話の中に「X」が認められる例で、意味的機能には「XというよりむしろY」という意味核がある。そして統語的機能には先行研究(1.1.)で示したように引用の「という」と似た分布上の制限があることから、引用の機能があるとする。また、語用的機能では、(9)の旧来型の「ていうか」の使用に前置きのディスコース・マーカの「ていうか」の機能はない。

次に<表2>の事例は、前置き表現として「ていうか」が単独で自立語として使用されている。この場合、統語的には、接続的、副詞的、間投詞的な機能があり、意味核は見当たらない。そして、語用的には、ディスコース・マーカの機能がある。従って、<表1>と<表2>からも、表層上にも深層上にも「X」が認められる場合、意味核があると言え、表層上にも深層上にも「X」が認められない場合、ディスコース・マーカになると言える。

では、なぜ、(12)のデータには前件「X」が認められないのに「否定」のニュアンスが残っているのだろうか。また、(13)、(14)は先行研究が言うように「否定」の意味は本当にないのだろうか。また、前件の省略という観点から捉えると、(14)の会話文にはコンテキスト情報が充分なく、省略箇所があったとしても復元することができない。もし、十分なコンテキスト情報が得られれば、X(この場合、相手のトピック)を復元することができ、相手を否定して自分の新しいトピックにシフトすると考えられ、相手を「否定」して言い換える意味核が残るのではないだろうか。

では、次にドラマや映画のデータから考察することとする。なぜなら、これらのデータは書き起こされたデータと違い、言語以外に現れるコンテキスト情報をドラマや映画の場面の様子で得ることができるからである。

### 3.4. 十分なコンテキスト情報が得られた場合

- (15) (韓国パブに行くかどうかについて仲間たち4人で話している。しかし、ブッサンはあまり韓国パブに興味を示す様子もなく、考えごとをしている。)

アニ : ブッサンも(ブッサンの肩をたたきながら)はやくVシネモードに着替えて5時集合な。

ブッサン : つうか、バンビは?

(皆、知らないと言葉を振ってこのシーンが終わる)

『木更津キャッツアイー日本シリーズ』宮藤官九郎監督

(15)のデータから「つうか」の発話の前のトピックが韓国パブに行くかどうかについて話されていることがわかる。しかし、ブッサンはその話題には興味がなく、「つうか」で前置きをしてトピックをシフトしている。この場合、はじめのトピックを談話の1つの単位として「X」と仮定すれば、後件の新しいトピック(バンビは?)は、「Y」として認めることが可能である。つまり、「前件のトピックXというか後件のトピックY」とすれば、「XというかY」と同じになり、意味核が明確になる。このようにコンテキスト情報を明確にし、談話を1つの単位として「X」と解釈することによってトピックシフトやトピック提示の前置き表現にも意味核があるということが言える。つまり、前置きのディスコース・マーカから、統語上「X」が認められなくても、文脈上、認めることが可能であれば、

「意味核」があると判断できると言える。従って、本稿の仮説である「前件のXが会話から、深層上も表層上も見当たらない場合、その「ていうか」はディスコース・マーカーとなり、意味核は残っている」ということが実証されたことになる。もちろん、統語的な旧来型の機能とは語用的という点において多少異なるが、前件を否定して後件に言い換えて述べるという意味核は存在していることになる。

また、このような「X」の解釈は、先に述べた関連性理論の観点からも説明できる。人間の認知は自分にとって関連ある情報に注意を払うようにデザインされているため、発話がある解釈のもとでなんらかのコンテキスト情報が得られた時、最小の労力で想定群から最適な関連性を得ることができるのである (Blakemore 1992, Sperber and Wilson 1986)。しかし、関連性理論の観点から考察することは今後の課題とし、本稿では、示唆するだけに留めておく。

このように仮説を実証することによって、自立語として使用されているディスコース・マーカーの「ってゆうか」は、先行研究の『現代用語の基礎知識』にある「特に意味なく表現を和らげる」表現や「話を切り出す時の意味のない前置き」という解釈は誤りで「前件の意味を緩和して後件で言い換える「XというかY」から派生した談話標識 (ディスコース・マーカー)」とすべきであろう。

#### 4. まとめ

最近の会話で使用される「ってゆうか」の先行研究では、「特に意味なく表現を和らげる」表現として説明されている。しかし、本稿では、このような前置き表現の「ってゆうか」は、もともとの「XというかY」の意味機能が未だ影響していると考え、それらを「ってゆうか」の意味核と定義し、仮説をたてそれを実証した。まず、先行研究で「旧来型」の「ていうか」と「ていうか」の統語的位置に着目したメイナード (2004) の先行研究を概観した。そして、語用的に拡大した用法と言われている「ていうか」が会話の中でどのようなストラテジーをもつのか概観した。そして、「ってゆうか」にはメイナードが言うように①発話の前触れ、②会話の埋め込み表現、③トピック提示の前置きなどのディスコース・マーカーの機能があることを概観した。そして、(8) の「前件のXが会話から、深層上も表層上も見当たらない場合、その「ていうか」はディスコース・マーカーとなる。そしてそのディスコース・マーカーには、意味核が残っている」という仮説をたてた。そして、まず、会話上から「X」が深層上も表層上も認められた場合、旧来型の意味核があることを分析し、次に、会話上から「X」が深層上も表層上も認められなかった場合、ディスコース・マーカーになると分析した。そして、ビデオなどの言語記号以外のコンテキスト情報からトピックの談話を1つの単位として捉えることにより、「前件のトピックXというか後件のトピックY」とすれば、「XというよりむしろY」となり、意味核が明確になる。そして、ディスコース・マーカーの前置き表現に意味核があるということを実証した。

本稿の研究は、ディスコース・マーカーの統語的位置に着目した点でも林 (2006) の研究に類似している。今後の課題は、それぞれの「ディスコース・マーカー」の意味に着目して分析し、十分な文脈情報が得られる際に、最適の関連性が最小の労力によって得られるということを実証するために関連性理論の観点から分析することである。

## 注

- 1) 本稿では「ってゆうか」、「っていうか」、「ていうか」、「つうか」、「てか」は同じ意味・用法とする。表記は先行研究で示された表記のまま表記することとする。
- 2) 米川（1994, 2001）は、若者語を「若者語とは中学生から30歳前後の男女が仲間内で、会話促進や娯楽などのために使う、規範からの自由と遊びを特徴に持つ特有の語や言い回しである。個々の語について個人の使用、言語意識にかなり差がある。また、井上（1988）は、若者がよく使い、他の人があまり使わない言葉と定義している。
- 3) 塩田（1993a）は「現代用語の基礎知識」から1998年版から2003年までを調べ、それ以降の2006年版は筆者によるものである。
- 4) 塩田（2003a）では、山口（1997: 175）は、「ただの話し始めに口にする意味のない言葉」としている。また岩松（2001: 117）も「これから自分がしゃべる」という合図、しゃべる前の気合入れとしていると述べている。
- 5) 談話標識の文法化の発達のプロセスには、「指示的、命題的意味」から「テキスト的」へ、そして、「感情表出的、あるいは対人的（主体の発想・発話態度にシフト）」に変化し、より「主観化」されたものへと意味が変化していくプロセスがある（秋元2002、大堀2004、メイナード2004）。ディスコース・マーカの「なんか」の文法化については、林（2006）を参照のこと。
- 6) メイナード（2004）はこの「か」を「宙ぶらりん疑問節」と呼んでいる。それは、「か」によって導かれる従属節である。
- 7) 関連性理論については、Blakemore（1992）、今井（1995）、西山（1995, 1999）、Sperber and Wilson（1986）を参照のこと。
- 8) メイナード（1994）は、会話上の「ていうか」はメタ言語的表現であり、独立して接続詞的に用いられ、言語表現の選択自体に対して話者が関与している。そして会話のストラテジーとして使われている点をあげ、「ていうか」が話者の発想・発話態度の標識であること（メイナード1994: 84）を指摘した。
- 9) 本稿では、データとして映画の『木更津キャッツアイ日本シリーズ』、『「下妻物語」りゅうざきももこ』『IWGP』とブログから「ってゆうか」「つうか」「てか」などを取り出し、分析の対象とした。
- 10) 本稿の（6）の「①ていうか」はメイナード（2004）では、本音の前触れに分類されている。

## 引用文献

秋元実治 2002 『文法化とイディオム化』 ひつじ書房

Blakemore, Diane. 1992 *Understanding Utterances: an introduction to pragmatics*. Oxford: Blackwell. [武内道子・山崎英一（訳）『ひとは発話をどう理解するか—関連性理論入門』1994. ひつじ書房]

林 千賀 2006 「ディスコース・マーカ「なんか」の発達—意味の漂白化—」『言語教育・コミュニケーション研究』第一集 昭和女子大学大学院

堀口順子 2000 『日本語教育と会話分析』くろしお出版

- Hopper and Traugott (1993) *Grammaticalization* Cambridge University Press [日野資成  
(訳) 2003『文法化』九州大学出版会]
- 井上史雄 1988 「若者語」『日本語百科大事典』
- 今井邦彦 1995 「関連性理論の中心概念」『月刊日本語』 pp.20-29
- メイナード・泉子 K 1994 「“という”表現の機能—話者の発想・発話態度の標識として—」  
『月刊言語』 Vol. 23 11月号大修館書店
- \_\_\_\_\_ 2000 『情意の言語学—「場交渉論」と日本語表現のパトス—』くろしお出版
- \_\_\_\_\_ 2001 『恋するふたりの「感情ことば」ドラマ表現の分析と日本語論』くろし  
お出版
- \_\_\_\_\_ 2004 『談話言語学』くろしお出版
- \_\_\_\_\_ 2005 『日本語教育の現場で使える談話表現ハンドブック』くろしお出版
- 水谷 修 1979 『話しことばと日本人 日本語の生態』創拓社
- 西山佑司 1995 「言外の意味を捉える」『月刊言語』第24巻4号 pp.30-39 大修館書店
- \_\_\_\_\_ 1999 「第1章語用論の基礎概念」『7 談話と文脈』岩波書店 pp.2-54
- 大堀壽夫 2004 『認知言語学』東京大学出版
- 沖 裕子 1999 「手のひらの言語学 (質問21)」『言語』第28巻5号 pp.80-83
- Sperber and Wilson 1986 “*Relevance: communication and cognition*” Harvard College. [内  
田聖二・中達俊明・宗南先・田中圭子 (訳)『関連性理論—伝達と認知』1993. 研  
究社出版]
- 塩田雄大 1998 「ことば・言葉・コトバ「ってゆーか」」『放送研究と調査』1998.3 pp.57
- \_\_\_\_\_ 2001 「ことば・言葉・コトバ「ってゆーか」再考」『放送研究と調査』2001.6  
pp.61
- \_\_\_\_\_ 2003a 「「新興台頭表現」の属性差とメディア—っていうか、ヤバくない?—  
「近年の言語変化」全国調査から(1)」『放送研究と調査』第53巻4号 pp.12-33
- \_\_\_\_\_ 2003b 「新しい言葉を使う人・使わない人—「近年の言語変化」全国調査から  
(2)~」『放送研究と調査』第53巻6号 pp.70-83
- 砂川有里子 2004 「てゆうか」北原保雄編集『問題な日本語』pp.39-43, 大修館書店
- 辻 大介 1999a 「若者語と対人関係—大学生調査の結果から—」『東京大学社会情報研究  
所紀要』第57巻 pp.17-40
- \_\_\_\_\_ 1999b 『とか』『ってゆうか』のコミュニケーションと友人関係—関西大学生調  
査報告書— (<http://www2.ipcku.kansai-u.ac.jp/~tsujidai/paper/index.htm>)
- 梅沢 実 1999 「ていうか」の使用心理から探る中学生の友人関係『日本語学』18:14  
pp.79-83
- 山口沖美 1997 『山口沖美の言葉の探検』小学館
- 米川明彦 1994 『日本語学』13巻12号 明治書院
- \_\_\_\_\_ 2001 「位相語・集団語・若者語をめぐって」『国文学』第46巻12号 pp. 94-97